

関東南部でのトウモロコシ二期作栽培体系

関東南部でトウモロコシ二期作をする場合は、1作目にRM100～110、2作目にRM125～135の品種を組み合わせて、1作目は4月10日頃まで、2作目は8月7日頃までに播種を行きましょう。

播種日	1作目 品 種			播種日	2作目 品 種			
	KD500 (RM100)	LG3520 (RM110)	34B39 (RM115)		34P41 (RM120)	NS813 (RM125)	SH3817 (RM125)	30D44 (RM135)
4/1	黄熟期 7/28 1,178	黄熟期 8/4 1,302	黄熟期 8/5 1,321	8/4	黄熟期 (11/30) 1,258	糊熟期 (11/30) 1,258	黄熟期 (11/30) 1,258	糊熟期 (11/11) 1,125
4/8	黄熟期 7/28 1,166	黄熟期 8/4 1,289	黄熟期 8/5 1,308	8/11	糊熟期 (11/30) 1,138	糊熟期 (12/6) 1,151	糊熟期 (11/30) 1,138	乳熟期 (11/11) 1,104
4/16	黄熟期 7/28 1,145	黄熟期 8/11 1,390	黄熟期 8/11 1,390	8/18	乳熟期 (12/10) 1,019	乳熟期 (12/10) 1,019	乳熟期 (12/10) 1,019	乳熟期 (12/10) 1,019
4/21	黄熟期 8/4 1,249	黄熟期 8/11 1,371	黄熟期 8/11 1,371					

上段:収穫時ステージ
中段:収穫日
下段:有効積算温度(10℃基準)

図1 品種及び播種期の違いに収穫期及び収穫時ステージ

1作目は、4/8までの播種は、8月上旬までに黄熟期で収穫できた。
2作目は、8/4の播種は、11月下旬に黄熟期で収穫できた。

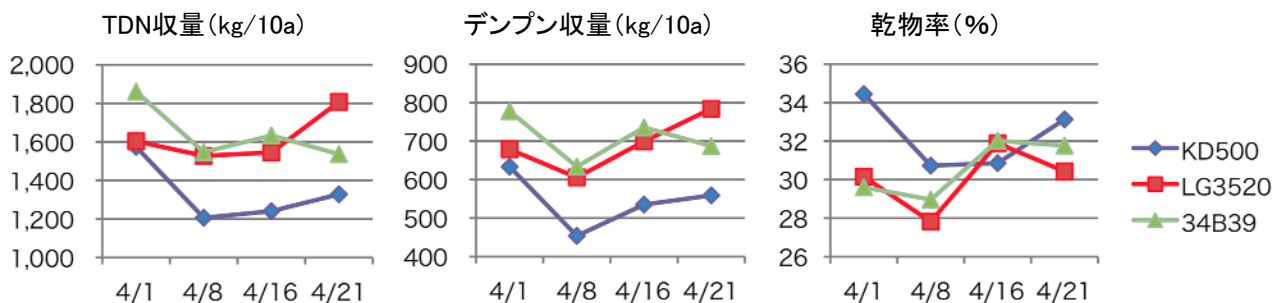


図2 1作目の品種及び播種期の違いによるTDN収量、デンプン収量及び乾物率の差

TDN収量及びデンプン収量は、LG3520及び34B39が多い傾向。
乾物率は、播種期及び品種に関わらず高い傾向であった。

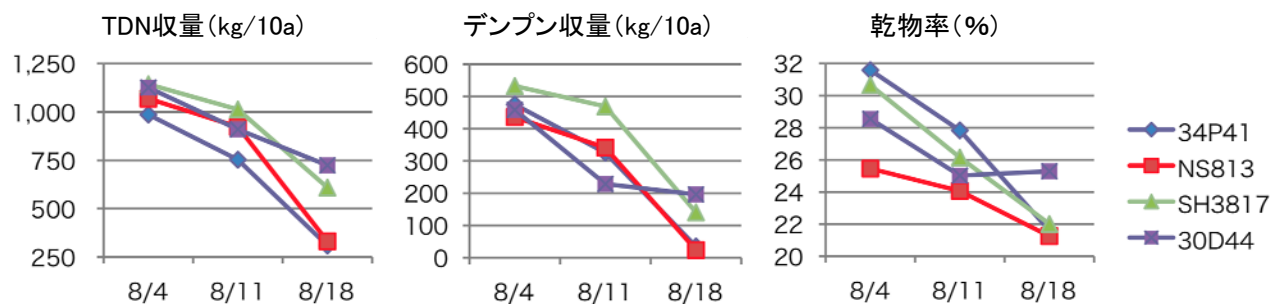


図3 2作目の品種及び播種期の違いによるTDN収量、デンプン収量及び乾物率の差

播種期が遅くなるとTDN収量、デンプン収量、乾物率は減少した。